



「第5回 (仮称) マンガの聖地としまミュージアム整備検討会議」の報告

平成 29 年 1 月 17 日、豊島区役所・507・508 会議室において、第 5 回 (仮称) マンガの聖地としまミュージアム整備検討会議が開催されました。里中満智子座長をはじめとした委員、オブザーバーの計 24 名が参加しました。



議事

■(仮称) マンガの聖地としまミュージアム整備基本計画 (素案) について

事務局より (仮称) マンガの聖地としまミュージアム整備基本計画 (素案) について説明を行ったうえで、各委員による意見交換を行いました。

委員の主な意見

■事業活動計画、展示計画、施設整備計画について

- ・復元ということは、外観も内装も全てそのままというイメージを持っていた。2 階のマンガ家の居室は全て再現し、常設展示等に使用するのには、その他の部屋だけに限定すべき。
- ・全てを復元すると言っても、手塚治虫先生の退去後に藤子不二雄[Ⓐ]先生と藤子・F・不二雄先生が入居した 14 号室はどうか。全部復元するということは物理的に無理である。
- ・マンガ家の先生方の協力が全面的に得られるということ为前提として話が進んでいるが、プロダクション等の協力が得られるかどうかは、今のところ未確定である。協力が得られなかった場合であっても成立する計画を立てておく必要がある。
- ・トキワ荘は、観光の目玉となるブランドとなっている。外観についても、忠実に復元すべき。
- ・様々な事業活動をここで行うとすると、施設全体の面積としては、現計画の 3 倍あっても足りないだろう。今回は割り切って忠実な復元を行い、必要に応じて拡張していけば良い。

- ・来館者がトキワ荘をバックに撮った写真の SNS 等による拡散が期待できるので、外観は忠実に再現すべき。
- ・2 階を全室復元した場合、企画展示室や一時保管庫が設置できないので、企画展示は行えない。1 階に常設展示室と多目的ルームを設けることになる。その場合には、完全なミュージアムは諦めて、南長崎マンガランド事業における一番大きなモニュメントと割り切る考え方もある。昭和の日本人の生活空間の再現という価値も出てくる。
- ・忠実に再現されたトキワ荘の建物があり、その横にさらに大きなミュージアムがあるという理想像が浮かぶが、実際には様々な制限がある。外観をどうするかは、本構想の重要なポイントなので、区として受け入れられない事情があるかもしれないが、委員会としての希望を示しておく必要はある。

→トキワ荘の外観の復元方針について、大きさやデザイン、質感を限りなく忠実に再現すべきかどうか、各委員の考えを確認した。

○賛成する委員は 10 名。

○反対する委員は 3 名。理由としては、施設の目的がわからないので判断できない、集客を維持するためには展示が重要で、10 室再現すると狭い等の意見が挙げられた。



■管理運営計画、事業推進計画について

- ・企画展の運営について、予算削減により開催回数が削減されるようなことを避けるため、年に最低何回行うというような指針は出しておいたほうが良い。
- ・トキワ荘の展示はもちろん、企画展示の場所を確保し、年に 4 回程度の展示替えを行うべき。集客力は重要で、来館者が少ないと、不要な施設だと言われてしまうこともある。
- ・ある程度の金額の入館料をとって施設の維持管理を賄える程度の収益性を目指すのか、あるいは教育施設として区が運営費を負担していくのか、将来も見据えて運営方針や事業計画を検討しておくべき。
- ・区の運営とした場合、職員が 3～4 年で異動してしまうので、専任スタッフを配置できるかたちが望ましい。また、著作権問題はとても難しいので、それに精通しているスタッフの配置が重要である。